

## <ポイント版> ぎふ経済レポート（令和6年5月分）

### 【製造業】

- 製造業は、3月の鉱工業生産指数は前月比7.1%上昇となった。ヒアリングでは、自動車メーカーの出荷停止の影響から脱したとの声や、価格改定もあり、売上、利益共に増加傾向にあるとの声が聞かれた。一方で、生産停止や生産計画より台数が減少していることを要因として、売上、利益が減少しているとの声や中国での自動車販売の不振により、受注が計画を下回っているとの声が聞かれた。
- 地場産業は、3月の鉱工業生産指数は、木材・木製品、食料品、窯業・土石、繊維工業、家具で上昇した。ヒアリングでは、一般消費者向けの商品の売上が好調との声や、インバウンドの回復により既存製品の受注は増加傾向にあり、最終利益が黒字化したとの声が聞かれたものの、一方で、コロナ禍を脱出した感があるが、売上は低位に推移しており、価格転嫁ができていないため、利益が減少しているとの声が聞かれた。

### 【設備投資】

- 設備投資は、4月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲8.9%となった。ヒアリングでは、新しい設備を導入することにより自動化・省人化を進めていくとの声が聞かれた。一方で機械更新は行うものの、IT投資や脱炭素化に対応した設備投資にまでは手が回らないとの声が聞かれた。

### 【個人消費】

- 個人消費は、4月の販売額は、ドラッグストア、ホームセンター、百貨店・スーパーで前年同月比で上昇し、全体で同1.5%上昇となった。ヒアリングでは、生鮮食品スーパーの売上が好調との声が聞かれた一方で、居酒屋店舗でディナータイムの客数がコロナ禍前と比較して戻ってないとの声や、食品・飲食以外は価格転嫁の幅が小さいとの声が聞かれた。

### 【観光】

- 観光は、観光客数、インバウンド客の増加等により、観光客数、宿泊者数ともに前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、観光客数はコロナ前の約8割、宿泊者数は約9割まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

### 【資金繰り】

- 企業の資金繰りは、4月の制度融資実績は、金額で15ヶ月連続増加となった。原材料高や人件費の高騰で運転資金が底堅かったとの声や、伴走支援型特別保証制度について、需要が旺盛であった時期と比較すると、落ち着いてきたとの声が聞かれた。

### 【雇用】

- 雇用面は、4月の有効求人倍率は1.58倍と31ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、地方での新卒採用はかなり厳しく、中途採用も厳しい状況が続いているとの声や工場内の衛生管理や製造機械の保守管理ができるような高度人材を必要としているとの声、求職者のリアクションが弱いため、求人費用が増大しているとの声が聞かれた。

### 【景気動向】

3月の景気動向指数（一致指数）は前月比4.8ポイント上昇、4月の中小企業の景況感と同1ポイント上昇となった。